



30年の歴史を振り返り これからの発展を目指して

上海日本人学校 事務局長 **武一彦**

上海の日本人学校は1975年に上海日本国総領事館(和平飯店)の一室で、西澤憲一郎初代総領事を校長に、上海補習学校として7名の生徒で産声を上げました。

その後、80社の日系企業から寄付を賜り、1987年4月22日に誕生した「上海日本人学校」の生徒数は、小学部50名、中学部11名の61名、建物面積は685㎡でした。



1987年開校・入学式

その小さな学校が、日中関係の本格的な進展と国際都市上海の目ざましい経済発展の中で、世界最大級の日本人学校として成長し現在に至っています。

上海日本人学校も、1987年4月の開校から、来年2016年4月には30年目の節目の年に入ります。

今回は、この30年を振り返り、上海日本人学校の歴史と現状を少

し知っていただければと思います。

上海日本人学校の成立

(1987年4月～1997年3月)

上海日本人学校の最初の10年は運動会や文化祭も外部の施設で行うなど、児童生徒だけでなく、教職員も苦勞した時代でした。

1991年には上海市人民政府外事弁公室に注册登記を承認され、教育委員会への登記も完了、同年には日本の文部科学省の実験実施校に指定されるなど学校として着実にレベルアップしていました。

また、多くの現地校、インター校と交流するなど、文化的な素地もでき上がっていました。

そして1996年6月には多数の日系企業の支援のもとで待望の新校舎(現在の虹橋校)が完成、第10回の運動会(1996年9月)がとうとう自らの校庭で開催されました。

また、1996年11月には開校10周年記念式典が第10回文化祭とともに体育館で開催されました。

この年の児童生徒数は、まだ294名でしたが、いよいよ学校としての発展が期待できる基礎ができました。

今ではお馴染みの上海日本人学

校の校歌は1988年に陳舜臣氏により作詞され、作曲は芥川也寸志氏の子で予定でしたが、氏の急逝により團伊玖磨氏に引き継がれ、1989年に校歌が完成しました。

校章が中学部1年生の判野麻矢さんのデザイン原案から制定されたのも、1988年2月のことでした。

2校体制の実現

(1997年4月～2007年3月)

90年代後半からの日系企業進出に伴って駐在員も増加、家族として帯同される児童生徒も増えてきました。その結果、2000年には602名であった児童生徒数が2003年には1,000人超えの1,278名、2005年には2,116名と急増したことで虹橋校の校舎だけでは対応できず、浦東校の建設を開始しました。

2006年2月に浦東校が竣工、新年度から虹橋校(小学部)と浦東校(小学部/中学部)の2校区体制となり、最初は小学部362名、中学部450名の812名で立ち上がった浦東校が、児童生徒数増加への受け皿として大きく役立ったことは言うまでもありません。

そして2006年11月4日には創立

20周年記念式典が虹橋校で行われました。

この時に記念事業として作られたピオトープは今でも虹橋校の中庭で児童の学習と憩いの場所になっています。また、20周年で埋設されたタイムカプセルは30周年に合わせて掘り出される予定です。

そのほか、上海日本人学校の組織にも大きな変化が見られました。上海日本商工クラブが2004年に民営非企業組織認可を取得したことで、2005年には上海日本人学校の注册登記上の設置者も上海日本商工クラブとなったことです。

ノーベル物理学賞受賞者の江崎玲於奈氏が講演のために来校、「上海日本人学校」の門札を揮毫されたのもこの時期、1999年6月のことです。

新しいステージへ向けて

(2007年4月～現在)

2006年に浦東校が開校し、学校としての体裁が備わった上海日本人学校は、外国籍児童生徒の教育機関として必要な外籍人員子女学校の教育部による認可を上海市教育委員会の指導のもとで2010年に取得しました。更に2014年8月には上海市社会团体管理局より民営非企業組織の認可を取得しています。

このように組織固めをしつつ2011年には世界の日本人学校で唯一の高等部を設立、生徒数は2013年に3,175名まで増加、生徒数で世界最大の日本人学校と言われましたが、その後、経済環境の変化などで児童生徒数世界一の座はバンコク日本人学校になっています。

また、2015年1月には保護者による自主運行の通学用バスに上海市の当局より、安全管理上の理由から運行禁止命令が出されましたが、4月からは正式に許可を受けた環境に優しい電動バスが「校車」として運行を始めています。



校車第1号車

この事案は本誌42号で報告しておりますが、上海日本商工クラブや総領事館を核とした日本人社会の底力を見せて頂いた瞬間でした。

家族と一緒に暮らせる喜び

1975年の上海補習校設立以来、教育の対象は小中学生であった上海日本人学校ですが、中学部在籍家庭の80%が高等部の設置を望んでいるとの調査結果を受け、総領事館、上海日本商工クラブの尽力のもと、文部科学省の設立認可を取得、また上海市教育委員会の承認も経て、2011年には世界89校(2015年11月現在)の日本人学校唯一の高等部が開校しました。

上海で家族と共に生活しながら日本の高校と同じカリキュラムで学べ、高等学校卒業資格が得られるだけでなく、協力大学コンソーシアム(11校)による推薦入学枠、さらに3月卒業など、インター校や現地校と異なり日本の大学進学に無理のない対応

が取れるのが高等部の魅力です。

生徒たちも少人数のメリットを活かして個性と感性を磨き、日本の難関国公立大学や有名私立大学に挑戦する者、服飾デザインやコンピューターなどクリエイティブな世界を望む者、看護や福祉の専門職を目指す者、現地の名門大学に留学を志す者など様々です。

このように個性豊かに伸び伸びと育っている生徒たちに日本の大手新聞社も注目、10月には「海外唯一の『高等部』奮闘 上海日本人学校」という記事も掲載されました。

上海という国際都市で家族と共に暮らし、学べる高等部は上海日本人社会が世界に誇れる教育環境です。今後の発展に向けての皆様のご協力をお願いいたします。

そして30年の節目に

2006年11月に20周年行事を行ってから丸9年が経過し、2016年11月には30周年記念式典を開催する予定です。

シンプルかつ心に残る30周年を迎える事が出来るよう学校とPTAが手を携え、関係者一同が準備していますが、もうひとつ、児童の安全を確保するためにも、この行事と同時に築20年を超えた虹橋校の修繕も行わなければなりません。

つきましては、この事業につきましても、皆さまのご理解、ご支援を賜りたくこの場を通じてお願いする次第です。これからも上海日本人学校が、上海の日本人社会における生活支援インフラとして十分な機能を発揮できますよう、益々のご協力をお願いいたします。